



議長 その映像は私も目に焼きついている。被害状況は想像を絶するもので、震災発生から9カ月余りが経過するが、復興は大幅に遅れている。国の政治力が試されているが、期待には程遠いものだ。そんな中、市長も英断をして大きな義援金を被災地に送られた。規模は違うが、昨年ゲリラ豪雨災害で苦しみを体験している市長は、被災地の痛みがより強く感じられたと思う。被災地へ職員の派遣も行われ

市長 何と言っても東日本大震災。あれほど衝撃的なことはなかった。庄原市も一昨年ゲリラ豪雨で被害を受けたが、桁違いの規模だ。テレビから流れる映像をリアルタイムで見ながら、まさかあれだけの犠牲者が出るとは思像すらしなかった。

昨年を振り返って



ているが、今後新たな取り組みの考えはあるのか。

市長 3月末までは同様の支援を継続することになっている。その先はまだ明確には決めていないが、おそらく継続していくことになるだろう。

市の事業を振り返ると、昨年は「庄原赤十字病院改築への支援」「庄原中学校」「とうじょう自治総合センター（仮称）」などの工事に着手し、大きなハード事業を進めた。市の長期総合計画・実施計画に基づいた事業は着々と進めてきている。その中で早期に結論が出せないのが、木質バイオマス事業に関連するジュオンの問題がある。これについては、市民の皆さんに大変ご心配をおかけしている。議会からも追及されるところではあるが、現在、事業継続へ向けた取り組みを目指す企業



たけうちみつよし 竹内光義庄原市議会議長 × たきぐちすえひこ 滝口季彦庄原市長

「元気とやすらぎのまち」を共に創る

明けまして おめでとうございます。

平成24年の幕が上がりました。今年はいくつどんな年になるのでしょうか。市の動きを見ると、今年はいくつ基本条例の施行や中国横断自動車道尾道松江線開通に向けた道の駅の本格整備など、庄原市の未来をかたちづくる重要な1年になります。そのためにより一層の協働のまちづくりが重要になってきています。

新年幕開けの今月号は、滝口季彦市長と竹内光義市議会議長に「庄原を語る」と題して対談をしていただきました。

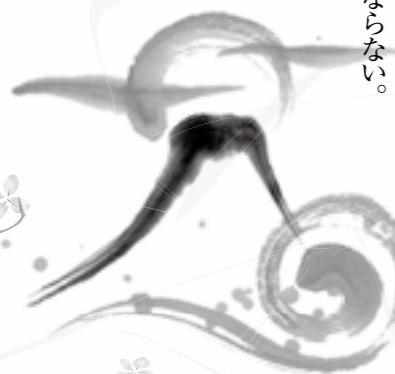
があり、懸命な努力で真摯な取り組みをしてもらっている。そこに期待を込めている。この問題が整理できないと私も自身も気持ちが落ち着かないが、少しずつ整理されてくると思う。補助金の返還が生じるのではと市民の皆さん思われているかもしれないが、結論は今しばらくお待ちいただきたい。事業そのものについては、実施計画に基づいて淡々と実施してきているので特段の問題はないと思っている。スポット的にその時々で出てくる事業は、それに応じて新たに実行していく必要がある。新しい年は、やりかけた仕事を継続検証し、見直しながら行っていく。在職任期の最終年度にもなるので、改めて正すところは正していくという強い気持ちでやっていきたい。

まちづくり基本条例施行へ

市長 これまでも協働の気持ちでまちづくりは行ってきた。自治振興区そのものを協働という思いで立ち上げ、さまざまな取り組みを行ってきた。まちづくり基本条例を施行すると言っても、その本質は変わるものではない。みんなを取り組んできた協働意識を条例化して明確にし、市民全体の意識付けにしたものだと考えている。議会でもいろいろと議論いただいたが、市民に共通の認識を持つてもらおう。理念的なものだと思っている。

議長 市長が言われるように、これまで行ってきた。市民との協働によるまちづくりを文章化したものが、まちづくり基本条例。これで終わりというわけではなく、その都度見直していけばいいと思う。条文に最高規範という文言が入っているために議会でも議論があったが、まちづくりを進める上では議会基本条例も同じである。まちづくりに対する基本姿勢は変わっていくものではないと思う。

市長 市民の方にも「まちづくりにかわつていく」「がんばらにやいけん」と思っていたただけでも、これまでとのかかわり方がまた違ってくると思う。「一緒にまちをつくるんだ」という認識がさらに出てくればと期待している。「市民が主役のまちづくり」に向けた、さらなる取り組みを行わなければならない。





期待がかかる

中国横断自動車道
尾道松江線開通

市長 中国横断自動車道尾道松江線開通には非常に大きな期待を寄せている。現在順調に工事が進んでいるが、国から予算が示されたので24年度末には間違いなく開通するという確信を持っている。それに向けて、道の



駅の整備などそれにかかわる諸準備を怠りなくやらなければならない。道の駅は開通と同時にオープンする。単なる通過地点にならない、ストロー現象が起これないように、高野逸品100プロジェクトなどにしっかり取り組み、人に来てもらえるような形の道の駅に仕立て上げないといけない。このたび決まった地域おこし協力隊員も、優秀な方に来ていただいたのでとても期待している。地元の高野はもちろん庄原市



議長 24年度は、耐震に不安があった東城小学校の改築や庄原保育所の建て替え、美古登小学校の耐震補強工事などにも着手され、庄原中学校も24年度中にはほぼ完成する見込みだと聞いている。市民の安全を考えると、は、われわれ議会にとっても大きな責務だ。引き続き、安全安心のまちづくりに努力していただきたい。

グローバル化に二石

市長 TPPへの参加は私の立場で最初から反対と言いつつ、これこれだけのものに影響が及ぶかというところが国民にうまく伝わっていない。あらゆる分野にかかわってくるので、自分たちの将来にもかかわってくる問題だ。諸外国からの圧力で、その最た

るものがTPPだ。農業を自由化したら日本は勝てるはずがない。法人化を推進しているが、一人が2千〜3千畝を耕作する米国などと日本が太刀打ちできるわけがない。これは消費者にも訴えないといけない。

議長 さまざまなところでこの話を聞くが、真の身を国が説明できていない。検証もできておらず、それを国民に伝えていない。参加交渉することへの反対は、市議会も県下でもっと早く表明している。有識者によって見解が分かれていますので、本当のところがかめない。

市長 これはライフスタイルにかかわってくる。日本国土に合ったようなライフスタイルを構築していくことが必要ではないか。格差社会が進む中で、

全体で盛り上げていかないといいけない。観光という面から考えれば、庄原市だけでなく広域観光を推し進め、例えば三次市などと協力して回遊ルートのようなものも考案するなど、一体的に取り組んでいくことができればと思っています。観光公社設立準備室が培った着地型観光のノウハウを生かして、よりよいものにしていきたい。

議長 私も同感。われわれ議会も庄原の観光が飛躍することを大いに期待している。地域経済団体なども尾道松江線が開通することに大きな経済効果を期待している。道の駅という土台はできる。ただ、これを生かすかどうかは自分たち次第だ。高野地域の人は当然一生懸命に取り組んでいるが、庄原の地に降り立っていただくためには全体で知恵を出ししっかりと取り組まないといいけない。大きな投資を行う道の駅を、北の玄関の新たな拠点として、ネットワークの構築と地域づくりを進めていかなければならないと思う。このところ元気が出る話はありません。元気が出る、出せる庄原にしていかないといいけない。そのためのいきつけかだ。それには市民の皆さんの支えが必要だ。

市長 中国縦貫自動車道ができたとき大変期待した。しかし、便利は良

一部の富裕層が利益を抱えるのではなく、富をうまく分配する仕組みをつくるのができればみんなが食べていける。努力したものが報われる社会にならないといけない。今は上昇志向がなく、あきらめている人が多くいる。

議長 若い人はこれからのものすごく大変な時代に入る。孫の世代もどうなるのかという思いがある。

市長 国内経済を循環させることが必要だが、海外とやり取りばかりしている。円高をみてみると、国ごとで制度や仕組みが違う中で、輸出がままならず国内産業がダウンしてしまっている。これには他国のレートを上げればいいと思う。中国の元を見ても安すぎる。1万円円で生活できる中国に比べ日本は20万円円で生活しないといけない。それには世界通貨の一つにすればいいのではないかと。グローバルということは、そこまですらないといけないと思う。

しっかりと汗をかき決意

市長 どういう状況になろうともあきらめず、明るい希望を持って取り組む姿勢を持つことが大切だ。悪いことや良いことはずっとは続かない。駄目だ駄目だと嘆かず、辛抱することも必要。現実には厳しいが、東日本大震災で

くなったものの、市の活性化にはそれほど結び付かなかった。工業団地を整備するも企業がなかなか来てくれなかった。それと同じ轍を踏んではならない。

議長 道の駅ができて、皆さんが関心をもつて一緒につくるといふ共通の認識に立たなければ意味がない。みんなで拠点にするようにお互いの立場で努力しないといけない。市長が一人旗を振ってもそれは難しい。みんなで知恵を出し合うことが肝要だ。

安心安全のまちづくり

市長 ゲリラ豪雨や震災など、防災に関する世論の関心はとて高い。市内の動きとして各自治振興区で自主防災に取り組んでいただいているので、そこをしっかりと支援していきたい。また、旧庄原地域には防災無線がないので、25年ごろを目途に整備に取り掛かりたいと思っている。現在設置しているオフトークや防災無線も更新時期が近づいているので、計画的に更新をしていきたい。ゲリラ豪雨災害の復旧は、市の関係する部分は100%発注しているので、この1年でほぼ完了すると思う。

小：中学校の耐震化については、ほぼ完了する見込みだ。そのほかの市内施設については、耐震が必要なのは順次見極めながら進めていきたい。

もあれだけの被害に逢っても暴動も起きず、復興に向け努力されている。感謝の気持ちと人のために尽くすという精神を持ち続けられ、もつと住みやすい世の中になるはずだ。人を手助けすることによって喜びを感じる生活に。そういう気持ちを持ちながら、市民の皆さんや市議会と力を合わせ、みんなが笑顔で明るく生活できる庄原を目指し取り組んでいきたい。

議長 今は何が起るか分からない時代。何があってもそれをみんなしっかりと見極めて、市長が言われるように辛抱強く、それに打ち勝つためのバイタリティを持ちながら、人のせいではなく自分が頑張るといふ共通認識が必要だと思ふ。そのために議会も市民のためにしっかりと議会議員活動に取り組む。市民の幸せを願ひ、自分たちの活動を検証していきたい。市長と一緒に手を組んで、しっかりと汗をかいていきたいと思う。

